

開催日時	令和8年4月19日（日）午前10時～11時30分まで
開催場所	舞鶴市役所本庁本館4階 議員協議会室等
テーマ	これからの公共施設と私たちの暮らし ～これからも安心して暮らせるように～
参加市民	26人
出席議員	担当委員会：総務消防委員会 川口孝文、小谷繁雄、小西洋一、西村正之、野瀬貴則、山本治兵衛 サポート委員会：産業建設委員会 今西克己、尾関善之、上野修身、高橋秀策、福本明日香、松田弘幸 オブザーバー 肝付隆治 議長

内 容

【全体概要】

多様な視点から御意見をいただくため、次の方々に御参加いただくこととし、公共施設が抱える課題、公共施設マネジメントの重要性や舞鶴市の取組に関する資料を送付することにより、一定の御理解をいただいた上で、当日に臨んでいただいた。

〈参加者の皆さん〉

- (1) 公共施設を日頃から利用されている市民やテーマに関心を持たれた市民
- (2) 西舞鶴高等学校生徒
- (3) 東舞鶴高等学校生徒
- (4) 日星高等学校生徒



当日は、「身近な公共施設の所在地や提供されるサービスが変わったら困ることはあるのか」、「公共施設が整理されたとしても、不便を感じることがないように必要な支援は何か」、参加者の皆さんと意見交換することで、公共施設の在り方がこれまでとは違うものになったとしても、皆さんがこれまでどおり安心して暮らせるように必要な行政の支援について検討した。

各グループの意見交換の内容は、次のとおり。

1班 担当議員：小西洋一 市民参加人数：6人

《身近な公共施設の所在地や提供されるサービスが変わった場合の困りごとや課題に関する意見》

- ・ 公共施設の数が減ると、これまで実施してきた継続的な「教室的な取組」ができなくなり、市民にとっても利用しにくくなるので困る。
- ・ 現在の施設が老朽化しており、空調などにも課題があるので公共施設の統廃合はやむをえないと考えるが、施設数が少なくなると施設の利用料金が高くなるのではないかと心配。当然、市民にとっては利用しにくくなる。
- ・ 公共施設が減ると、世代間の交流の場がなくなり、人と人が関わる場所が減ることになる。市民の交流の機会が減ることになるので地域づくりにとって困難が生まれる。
- ・ 施設までの距離が延びることで、タクシーやバスなどの利用で施設に行くまでにお金がかかり、行く回数も減ることにつながる。公共施設までの足の確保をどうするかが課題になる。
- ・ 東西図書館が統合されると、これまでそこを居場所にしていた方々はどうなるのか心配。そこを居場所にして自学自習していた学生や市民の居場所がなくなることにつながる。
- ・ 身近な公共施設の所在地や提供されるサービスが変わると、高齢者も困るが、過疎地域の子育て支援にも大きな課題が生じる。例えば、子育てにおける適切なサービスが受けにくくなったり、若いお母さんたちの交流などもできにくくなったりするのではないかな。



《困りごとや課題の解消のために必要な工夫や支援に関する意見》

- ・ 市民が利用しやすいように「利用料金」も安くすべきではないか。思い切って「無料」で利用できるようにすることも考えるべきだ。
- ・ 公共施設の統廃合が行われると、普通自動車の運転免許証を返納するなどで移動手段を持たない市民へのサポートが必要となる。公共の交通手段と合わせて交通手段へのサポートを充実させること。若い世代が同じ地域の方を乗せるなどの工夫が必要
- ・ 高校生のボランティア活動をより充実させて、高校生だけで行事を主催して地域づくりに積極的に貢献したいと思っている。

- ・ 公共施設を統廃合するなら、各地域にある空き家などを活用し、「みなし公共施設」として借り上げて、公共施設化すれば、近くに住む高齢者や移動手段を持たない市民も利用しやすくなる。

《これまでどおり安心して暮らせるように必要な行政の支援に関する意見》

- ・ 図書館など公共施設は「ハコモノ」ではなく、公共施設という「システム」を構築する必要がある。図書館も「移動図書館」などを優先させるなどサービスを重視すべき。
- ・ 市として、今回のテーマをもっと広く、舞鶴市民の意見を聞く場を設けるべきではないか。加佐地区と大浦地区ではワークショップが行われたが、市内部でも少なくとも東・西・中に分かれて、市民の声を広く聴く場を設けることが必要
- ・ 市から市民への情報提供をもっと強めるべき。子育て支援や地域の行事など様々なツールを通じて情報提供し、市民一人一人の意識の向上を図ると同時に、市民の活動を活性化させることが必要
- ・ 図書館や公共施設での相談業務をアウトリーチして、家からでもどこからでもZOOMなどを利用して相談業務などを受け付けるシステムを構築すると市民と市役所がもっと身近になる。
- ・ 市役所の業務における人員不足があるので、市民へのサービスが充実していないと思う。市の職員を適切に増員して、市民サービスを充実させることが必要

2班 担当議員：小谷繁雄 市民参加人数：5人

《身近な公共施設の所在地や提供されるサービスが変わった場合の困りごとや課題に関する意見》

- ・ 学校や公民館では暖房・空調の不具合、トイレの故障、建物の老朽化など基本的な設備不良が多い。
- ・ 使用料金が高く、ボランティア団体が利用しづらい。
- ・ 公共施設の情報が分かりにくく、自由に使える自習・交流スペースが少ない。
- ・ 終電の早さや電車本数の少なさ、多くの施設が「車がないと行けない」。

- ・ 高齢化が進む中、公民館などに歩いて行けず、移動手段の不足が利用機会を制限している。
- ・ 若者の意見が行政に届きにくい。新図書館について、若者の意見で実現してほしい。

《困りごとや課題の解消のために必要な工夫や支援に関する意見》

- ・ 新図書館には、フリーWi-Fiや飲食可能スペース、学習スペースを整備してほしい。
- ・ 芝生広場や交流広場の整備、市民が自由に利用できる交流スペースの拡充、公共施設料金の引下げなど、利用しやすさを高めてほしい。
- ・ 終電の早さや電車本数の少なさに対応するため、バスの増便やあやバスのような地域交通を導入してほしい。
- ・ 図書館のあり方について、学生の意見を取り入れることや高校生の協力を得る仕組みづくりが必要である。
- ・ SNSを活用した意見収集や若者議会の設置、若者自身による情報発信など、若者の声を反映するための具体的な仕組みづくりを求める。



《これまでどおり安心して暮らせるように必要な行政の支援に関する意見》

- ・ 公共施設の基本的な機能を維持し、利用しやすい環境を整えることが重要である。
- ・ 学校や公民館では、暖房・空調の不具合や施設の老朽化が進んでいるため、適切な修繕を行い、安全で快適に利用できる状態を確保する必要がある。
- ・ 施設情報が分かりにくいとの声があり、行政の情報発信を改善し、市民に必要な情報が届く仕組みを強化する。
- ・ 移動手段の不足や公共交通の利便性の低さが利用機会を制限しており、バスの増便や地域交通の導入、人員配置などの支援策によるアクセス環境の確保が必要である。
- ・ 図書館づくりに学生の意見を取り入れる仕組みや高校生が地域活動に関わる機会の拡大、SNSを活用した意見収集、若者議会の設置、若者による情報発信など、舞鶴の将来像を共有し、参画できる環境を整えることが重要である。

3班 担当議員：西村正之 市民参加人数：4人

《身近な公共施設の所在地や提供されるサービスが変わった場合の困りごとや課題に関する意見》

- ・ 施設までの距離が遠くなると、徒歩や自転車での移動が難しくなるほか、交通アクセスが不便であったり、高齢者で移動手段がない場合は行きづらくなる。
- ・ イベント開催時など駐車場が不足する。
- ・ 利用料金の上げは困る。
- ・ 行事等に関する発信力が弱く、施設の場所や利用目的がわからない人も多い。
- ・ インターネットが苦手な高齢者には施設の予約が難しい。
- ・ 施設の年間予約ができない。
- ・ 公民館で暮らしや地域の課題の相談ができるようにしてほしい。



《困りごとや課題の解消のために必要な工夫や支援に関する意見》

- ・ 巡回バスの充実など、誰もが施設へ足を運ぶことができる移動手段を確保する。
- ・ 助成金の手続きなどを簡略化してほしい。
- ・ 学校と地域とのつながりや交流を拡充する。
- ・ 老若男女が集える居場所づくり
- ・ 子育て世代や高齢者が相談できる施設を整備する。

《これまでどおり安心して暮らせるように必要な行政の支援に関する意見》

- ・ バスの利便性の向上や公共交通機関利用時の補助
- ・ 利用料金の再検討(市民団体が利用する際の利用料金の設定など)
- ・ 地域集会所への支援
- ・ 市民が利用する施設に市民の相談事に対応できる職員を配置
- ・ 施設の予約方法の改善

4班 担当議員：野瀬貴則 市民参加人数：5人

《身近な公共施設の所在地や提供されるサービスが変わった場合の困りごとや課題に関する意見》

- ・ 中高校生は自転車が移動手段なので、体育館が一つになると行けなくなる。電車やバスに乗っては行かない。
- ・ 公民館が遠くなると歩いていく人は行けなくなる。車を使わない人は利用できなくなり、公民館が無くなった地域の集まりが少なくなる。
- ・ 統合したら統合先に車が集中する。車が停められなくなる。
- ・ 統合で予約が取りづらくなる。利便性が下がるのではないかな。

《困りごとや課題の解消のために必要な工夫や支援に関する意見》

- ・ 広い駐車場が絶対に必要。すぐ一杯になるような駐車場はかえって使い勝手が悪い。施設を利用しようとして駐車できない場合はすごく嫌な気持ちになる。
- ・ 公共施設へのアクセスしやすい公共交通が必要。車に乗れない、乗らない人の利用を考えていかなければならない。
- ・ 若い世代の人が使いやすいようにしてほしい（Wifi、売店等）。
- ・ 高校の登校時間とバスの時間があっていない（昔？今も？）。
- ・ 中心市街地には施設同士が近く代替が可能だが、周辺部の施設は代替が効かない。
- ・ シルバー人材センターさんが草刈りなどしているけど夏の日中は大変そう。地域に委託やお願いしてお互いに連携を取ってはどうか。



《これまでどおり安心して暮らせるように必要な行政の支援に関する意見》

- ・ 駐車場をもっと広く整備してほしい。
- ・ それぞれの施設に特色を持たせて活用促進
- ・ 体育館のアリーナや広場などでお弁当を食べれるようにしてほしい。
- ・ 売店やコンビニの併設など施設全体での利便性が上がるような柔軟な取組
- ・ 体育館の空調を早急に整備（避難所としての機能）

5班 担当議員：山本治兵衛 市民参加人数：6人

＜身近な公共施設の所在地や提供されるサービスが変わった場合の困りごとや課題に関する意見＞

移動に関する意見について

- ・ 施設に行くまでに時間がかかる。
- ・ 身近にある公共施設の場所が遠くなる。
- ・ 近くのモノが無くなると不便
- ・ 図書館が東と西で一つにされること。

機能に関する意見について

- ・ 図書館が無くなってしまうと勉強場所が無くなってしまう。
- ・ 普段、離乳食講座を開催しているので、料理室のある施設がなくなると困ることになる。
- ・ 公民館は、「場所」というより「機能」がなくなると困る。
- ・ スポーツランドとして整備をしてもサッカー、ソフトボール、野球などができない。
- ・ 替わりの施設は大丈夫か。

利用のしやすさに関する意見について

- ・ 公共施設の集約により、利用者が増加すると全員が快適に利用できない。
- ・ 一点に集中する。
- ・ 賑わっている施設とニッチな居場所になっている施設を、どう仕分けるのか。
- ・ 市民グラウンド等の無料で利用できる場所が少ない。



根本的な決め方について

- ・ 集約・複合化をする基準や基軸はどうか。

避けるべき最重要事項について

- ・ 不便さによる利用者の減少

＜困りごとや課題の解消のために必要な工夫や支援に関する意見＞

- ・ 公共交通とライドシェアやミーモを推奨する。（市民も理解し、協力する）
- ・ 公設民営を進め、市民が運営に関与する。

《これまでどおり安心して暮らせるように必要な行政の支援に関する意見》

- ・ 電車の本数を増やしてほしい。
- ・ 電車が1時間に1本なので増やして欲しい。
- ・ 小型バスの運用
- ・ 移動時間が少し多くなっても、付加価値があれば利用する。（スタバの設置など）
- ・ 市民の便利さと機能は、最優先に検討すること。

【今後の予定】

身近な公共施設が統廃合や機能集約された場合の不安や困りごと、公共施設が整理されるとしてもその機能や役割を守っていくために必要な工夫や支援について意見交換することで、皆さんがこれまでどおり安心して暮らせるように必要な意見・アイデアを共有することができた。

出された意見をもとに、公共施設の在り方が変わっても皆さんの暮らしをこれからも守っていくことができるように行政が支援できることを調査研究し、市への提言を目指す。